

復興ありがとうホストタウン 各自治体の取組

令和4年5月



Reconstruction Agency

復興・創生 その先へ

目次

【岩手県】

花巻市×米国・オーストリア共和国	2
大船渡市×米国	3
野田村×台湾	4
久慈市×リトアニア共和国	5
遠野市×ブラジル	6
陸前高田市×シンガポール共和国	7
宮古市×シンガポール共和国	8
矢巾町×オーストリア	9
大槌町×台湾・サウジアラビア	10
山田町×オランダ	11

【宮城県】

仙台市×イタリア	12
東松島市×デンマーク王国	13
亘理町×イスラエル	14
名取市×カナダ	15
石巻市×チュニジア共和国	16
加美町×チリ	17
岩沼市×南アフリカ共和国	18

【福島県】

本宮市×英国	19
飯舘村×ラオス	20
喜多方市×米国	21
伊達市×ガイアナ共和国	22
広野町×アルゼンチン共和国	23
二本松市×クウェート	24
白河市×カタール	25

※各自治体において東京大会直前期以降又は令和3年度以降に実施された復興ありがとうホストタウンの取組内容の概要を掲載しています。（令和4年4月時点）

※概要の内容は各自治体に作成協力をいただいたものです。

復興ありがとうホストタウン（岩手県花巻市の取組）

■ 岩手県花巻市×米国・オーストリア共和国

新型コロナウイルスの影響により直接の交流はできなかったが、相手国関係者と動画等を通じた間接的な交流を実施。オリンピック期間中、米国陸上競技連盟とオーストリア柔道連盟から、これまでの応援に対するお礼のメッセージ動画が届いたほか、姉妹都市米国ホットスプリングス市から、ホストタウン活動へのお礼のメッセージとして日本のポップスを日本語で歌う動画が届いた。

また、友好都市オーストリア共和国ベルンドルフ市の市民が参加した、復興ありがとうホストタウン「Sing Along Project」動画がホストタウンサイトに掲載されたほか、米国ホストタウン横連携企画で当市も参加したギフトボックス紹介動画や、市内高校生が参加した「上を向いて歩こう」合唱動画がオンラインホストタウンイベントで披露された。

東京大会後、ホストタウン功労者としてホットスプリングス市姉妹都市プログラム事業責任者メアリー・ズーニック氏に感謝状が贈呈され、当市もホストタウン自治体表彰を受賞した。



オーストリア柔道チームから届いた動画



米国ホットスプリングス市から届いた動画



「上を向いて歩こう」合唱動画



ベルンドルフ市民が参加した「Sing Along Project」動画



米国陸上競技連盟から届いた動画



ホストタウン功労者メアリー・ズーニック氏



USA HOSTTOWN
OMOTENASHI
GIFT BOX 2021



ホストタウンギフトボックス紹介動画

復興ありがとうホストタウン（岩手県大船渡市の取組）

■ 岩手県大船渡市×米国

機運醸成の取組として、東京2020オリンピック競技大会から正式種目に採用された3 x 3 バスケットの大会と在日米陸軍軍楽隊による市民参加型のコンサートのほか、大会終了後には、米国陸上代表コーチらと市内高校陸上部の生徒とのオンライン交流会を実施した。いずれも、異文化への理解を深め、東日本大震災を起点とした米国との未永い国際交流促進の契機となった。

令和4年度以降、東京2020オリンピックレガシー継承事業として、これらのイベントを継続して実施する予定。市民が主体となった事業への移行を見据え、人材育成と活動団体・組織の自立支援に取り組む。



3 x 3 OFUNATO CUPの様子



在日米陸軍軍楽隊七夕コンサートin大船渡



オンライン交流会の様子

復興ありがとうホストタウン（岩手県野田村の取組）

■ 岩手県野田村×台湾

選手の応援メッセージ動画制作・発信や応援旗の贈呈など、オリンピック・パラリンピック開催に向けた交流のほか、大会終了後にもオリンピック卓球選手とのオンライン交流や図書館での台湾紹介企画展、静岡市・大崎町と合同で行った台湾陸上協会オンライン陸上クリニックで交流を継続した。

また、台湾に向けた野田村の魅力発信映像制作・配信や台北市で開催された第10回台北国際動漫節での野田村ブース出展（復興状況や復興支援への感謝を伝える企画）により、交流がインバウンド観光等につながるための企画も実施した。



応援メッセージ動画



パラリンピック共同応援



オリンピック卓球選手とのオンライン交流



図書館での台湾紹介企画展



台湾陸上協会オンライン陸上クリニック



台北国際動漫節でのブース出展

復興ありがとうホストタウン（岩手県久慈市の取組）

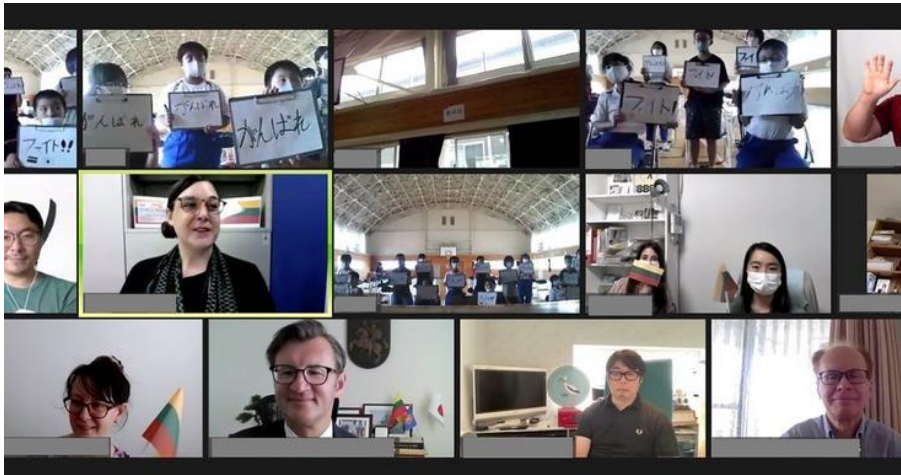
■ 岩手県久慈市×リトアニア共和国

【オンライン共同応援】

市内の小学生とリトアニア大使館等の関係者がオンラインで集まり、ゴールボール（パラリンピック競技）に出場するリトアニア選手を共同で応援し、交流を深めた。

【オンライン選手交流（大会後交流）】

東京2020パラリンピック柔道男子73kg級に出場し、銅メダルを獲得したオスバルダス・バレイキス選手と、市内の柔道スポーツ少年団の子ども達がオンラインで交流した。バレイキス選手と子ども達は柔道の得意技や日本の印象などを話題に盛り上がり、貴重な機会となった。



ゴールボール（パラリンピック競技）の
オンライン共同応援



パラリンピック柔道選手（銅メダリスト）との
オンライン交流

復興ありがとうホストタウン（岩手県遠野市の取組）

■ 岩手県遠野市×ブラジル

パラリンピック大会本番を前に、ホストタウンであるブラジルの5人制サッカー代表チームの監督、選手とオンライン交流を実施。交流には、2019年の事前合宿以降交流を続けてきた高校生をはじめとする市民及び市関係者らが参加。高校生からは大会への意気込みや競技の魅力などについて質問があったほか、応援動画も紹介し、市民から代表チームへエールを送った。

5人制サッカー決勝戦当日には、「ブラジルVSアルゼンチン」のオンライン共同応援を実施。大会前にオンラインで交流した高校生をはじめ、ブラジル岩手県人会、駐日ブラジル大使館、ブラジルのホストタウン自治体（浜松市、加古川市、弘前市）なども参加。この他、対戦国であるアルゼンチンのホストタウンの皆様も一緒になって応援を実施した。ブラジルが勝利し5連覇が決定した後は、遠野市民からの寄せ書き国旗を掲げる代表チームの姿がインターネットで生中継された。

大会後には、代表チームの選手と市民参加によるオンライン報告会を実施。市民からは5連覇を達成したことへの祝福、選手からはこれまで応援し支えてきた市民への感謝が伝えられ、今後の交流に向けた期待を高め合った。



大会前オンライン交流会



遠野市民からの寄せ書き国旗（決勝戦勝利後）



「ブラジル×アルゼンチン」オンライン共同応援

復興ありがとうホストタウン（岩手県陸前高田市の取組）

■岩手県陸前高田市×シンガポール共和国

市役所においてオリンピック卓球選手やパラリンピック水泳選手の活躍を画面越しに応援。大会後には、駐日シンガポール大使一行を陸前高田市に招いて「シンガポールフェア」を開催した。パラリンピックの馬術や水泳選手にもオンラインで参加いただいた他、中学生が卓球の指導を受ける貴重な機会も得ることができた。

更には、シンガポールからの支援も受けて建設された市コミュニティホール前に、シンガポール政府公認のマーライオン像を建設し除幕式を行った。



陸前高田市役所において、シンガポール選手の活躍に応援



シンガポールフェアにはパラリンピック選手がオンラインで参加



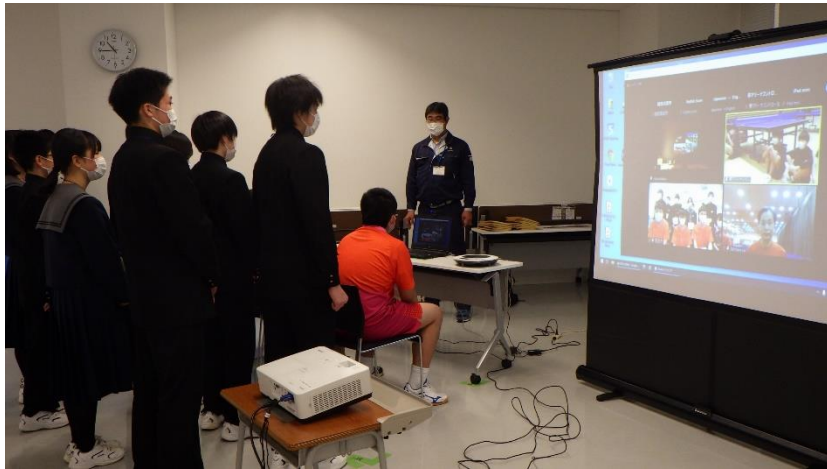
陸前高田市コミュニティホールの前に
建てられたマーライオン像

復興ありがとうホストタウン（岩手県宮古市の取組）

■ 岩手県宮古市×シンガポール共和国

宮古市と同じくシンガポール共和国の復興ありがとうホストタウンである岩手県陸前高田市が開催したシンガポール交流イベント（R3.12.04）「シンガポールとの中学生オンライン交流」に宮古市から12名の中学生が参加した。

また、同イベントの「シンガポールフェアin陸前高田」において、宮古市とシンガポール共和国との交流にかかるパネル展示を行った。



中学生オンライン交流の様子



中学生オンライン交流の様子（卓球指導）

復興ありがとうホストタウン（岩手県矢巾町の取組）

■岩手県矢巾町×オーストリア

同じくオーストリアをホストタウン相手国とする栃木県那須塩原市・長野県安曇野市と連携し、「食」「教育」「音楽」の3つの分野において事業を展開。町内の小中学生を中心とした若い世代に参加してもらうことで、東京2020大会のレガシーを次世代に伝えながら、国際色豊かな人材育成に貢献した。

「食」事業では、3自治体で生産されている食材を使用し、オーストリア・インスブルックのシェフからアドバイスをいただきながらおもてなし料理を共同開発。

「教育」事業では、オーストリアのエルヴィン・モーザー小学校を含めた各地の小中学校をオンラインでつなぎ、自分たちの街や学校についてイラストを用いて紹介。そのイラストは絵本に製本され、オーストリア選手団や関係者に贈呈された。

「音楽」事業では、3自治体の小中学生とオーストリアの音楽学校生・チロルで活動する楽団が参加し、オーストリア国歌や民謡などをそれぞれの公用語で演奏する様子を各地で動画撮影。それを全員で演奏しているように編集し、一本の動画にまとめた。

対面での交流がなかなか叶わない中、いずれもオンラインを活用しての取組であったが、オーストリア選手団や関係者を応援し、おもてなしをしようと3自治体で連携しながら工夫を凝らした交流事業を展開した。



エルヴィン・モーザー小学校とオンライン交流



共同開発したおもてなしメニュー



オンラインツールを活用して動画撮影

復興ありがとうホストタウン（岩手県大槌町の取組）

■岩手県大槌町×台湾

選手との事後交流に向けて中華台北オリンピック委員会、中華台北パラリンピック委員会をはじめ卓球・バドミントン・陸上の協会とのオンライン会議のほか、東京オリンピックに出場する選手の情報などを紹介する広報記事の制作、各自治体と連携し台湾での応援プロモーションを実施。また、東京オリンピック大会後に卓球銅メダリスト鄭（チェン）選手と生徒たちとのオンライン交流を実施。これまでの活動や支援での感謝を伝えるため、各自治体と連携し第10回台北国際動漫節にホストタウンブースを出展。

■岩手県大槌町×サウジアラビア

選手との事後交流に向けてスポーツ省とサッカー協会との打合せのほか、サウジアラビアにエールを送るため、各自治体と連携し生徒によるサウジアラビア国家斉唱の製作をはじめ、サウジアラビア関係者がオンライン上に集い、「サウジアラビア応援DAY」と称し交流会を実施。



委員会・協会とのオンライン会議



「台北国際動漫節」ホストタウンブース

各自治体と連携してギャザリングアートによる応援旗贈呈



卓球銅メダリスト鄭（チェン）選手と生徒たちとのオンライン交流会



生徒によるサウジアラビア国家斉唱製作



「サウジアラビア応援DAY」交流会

復興ありがとうホストタウン（岩手県山田町の取組）

■岩手県山田町×オランダ（共同応援）

オランダ代表陸上競技選手である、ケニー・ファン・ウェーヘル選手を応援するべく、オンラインを活用して山田町民とオランダの方々で共同応援を実施。参加した町民からは「オランダの方々と一緒に応援することはとても楽しかった」「新しい応援方法を教わることができ、勉強になった」などの感想をいただいた。

また、共同応援が始まる前に山田町とオランダの交流歴を紹介させていただいた際、オランダの方々から「山田町との歴史にとっても興味がわいた」「オランダと山田町のコラボ料理が食べてみたい」などの感想をいただいた。

■岩手県山田町×オランダ（事後交流会）

東京2020パラリンピック競技大会で金メダルを獲得した、オランダ女子車いすバスケットボールチームのマリシカ・バイヤー選手とクセナ・ウィメンフーベ選手とのオンライン交流会を開催し、当町からは、女子バスケットボールスポーツ少年団の小学生らが参加した。交流会では実際の金メダルが披露されたほか、選手らに直接質問する貴重な機会が設けられ子供達は、メダリストとの交流に興奮していた。最後に2人のメダリストから、「みんな頑張ってるね！」と激励をいただき、子供達は「金メダルが見れて嬉しかった。今度は是非、山田町に来てください」と感想を伝えることができた。



オンライン交流会の様子



オンライン交流会時、子供達からメダリストへ質問する様子



オランダ陸上競技選手をオランダの方々と町民で共同応援する様子



オランダ人選手を共同応援 記念撮影



オンライン交流会記念撮影

復興ありがとうホストタウン（宮城県仙台市の取組）

■宮城県仙台市×イタリア

ソフトボール・パラ陸上・パラ水泳・車いすフェンシング・シッティングバレーボールの事前合宿を受け入れ、壮行試合や距離をとっての質疑応答、中学生が考案したスイーツを食べながらのオンライン交流のほか、沿道から子どもたちが声援を送れるようバス走行ルート工夫などを行った。



イタリアソフトボールチームの壮行試合



沿道から子どもたちが声援を送る



スイーツを考案した中学生とイタリア選手団のオンライン交流



復興ありがとうホストタウン（宮城県東松島市の取組）

■宮城県東松島市×デンマーク王国

令和2年度に作成した、デンマーク王国との交流をPRするポスターを市内各所に掲示し、復興状況の発信とこれまでの支援への感謝を伝えるとともに、東京2020大会へ向けた機運醸成を図りました。

東京2020大会後は、デンマーク王国オリンピックパラリンピック選手団の活躍を称えるとともに、多くの感動と希望をいただいたことへの感謝メッセージをお伝えしたところ、デンマーク王国大使館SNSで発信していただきました。



デンマーク王国との交流PRポスター

デンマーク大使館
2021年8月25日

【デンマーク「復興ありがとうホストタウン」・東松島市からの感謝状】

「復興ありがとうホストタウン」とは、東日本大震災から復興した姿を見せつつ、これまでの支援への感謝を伝えるために、支援してくださった相手国・地域の方々や大会関係者との交流を行う自治体です。宮城県にある東松島市とデンマークは東日本大震災後に様々な交流があり、今回のデンマークパビリオンのオープニングセレモニーでは渥美市長が大使とともにリボンカットをしていただきました。そして、東松島市からオリンピック終了後、デンマーク王国選手団の活躍が多くの東松島市の皆様に希望を与えたということで市から感謝状をいただきました。

残念ながら新型コロナウイルスの影響で市民の皆さんと選手との直接の交流は実現できませんでしたが、少しでも多くの方々に笑顔と感動をデンマーク王国選手団から届けられていれば幸いです。引き続きパラリンピックに参加するデンマーク選手団への応援もよろしくお願ひ致します！

#オリンピック
がどうホス



感謝メッセージ
および大使館SNSでの発信の様子

復興ありがとうホストタウン（宮城県亶理町の取組）

■ 宮城県亶理町×イスラエル

東日本大震災からの復興支援に対する感謝の思いを伝えるため、令和3年（2021年）7月には、町長が駐日イスラエル大使公邸を訪問し、東京2020オリンピック・パラリンピック大会に出場する選手たちに記念品を贈呈したほか、同国の文化・スポーツ大臣および大使と今後の交流事業についての意見交換を行いました。

また、同年12月には、駐日イスラエル大使館のギラッド・コーヘン大使が初の地方公務で本町を訪問し、今後の交流展望について町長と話し合いました。



大臣と大使（当時）、町長、町民による記念撮影



大使が本町を訪問した際の様子



大使に東日本大震災の被害状況を伝える様子

復興ありがとうホストタウン（宮城県名取市の取組）

■ 宮城県名取市×カナダ

東京大会で市民応援団によるカナダの自転車競技選手団を応援する計画だったことから、大会の機運を盛り上げるべく元オリンピックを講師に迎えマウンテンバイク体験会・講演会を開催した。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、大会期間中、競技会場での市民応援団による応援ができなくなったため、カナダ自転車選手やスタッフへの応援メッセージ動画を作成し届けたところ、スタッフから、「感動的な映像をありがとう、選手団みんなに伝えるよ！」というメッセージをいただいた。

また、当市が以前から行っている中学生海外派遣事業でブリティッシュ・コロンビア州スーク市と交流があるつながりから、市長同士による両市の近況や相互交流の継続及び発展についての意見交換をオンラインを通じて複数回実施した。今後も暫くはオンラインを中心とした交流を継続しながら、コロナ禍後は相互往来による交流を一層促進していく。



マウンテンバイク体験会の様子



カナダ自転車競技選手団に伝えた応援メッセージ動画



カナダB・C州スーク市長（右上）とのオンライン交流

復興ありがとうホストタウン（宮城県石巻市の取組）

■宮城県石巻市×チュニジア共和国

チュニジア共和国ウエイトリフティング選手団の事前合宿を7月11日から受け入れ、12日間にわたり、5名の選手と4名のスタッフが石巻市トレーニングセンターを拠点として練習に励んだ。

公開練習を行ったほか、激励会を実施し、市長から選手団に激励の言葉を贈るとともに、記念品としてチュニジア共和国ウエイトリフティング選手団のユニフォーム姿をイメージした「石巻こけし」等を贈呈した。

選手団からは、「石巻で合宿できてよかった。大会ではメダルを取りたい」などの感謝の言葉をいただいた。



練習の様子



公開練習 & 選手との交流



ウエイトリフティングチーム見送り



ウエイトリフティングチーム激励式



復興ありがとうホストタウン（宮城県加美町の取組）

■宮城県加美町×チリ

大会前には同じくチリのホストタウンである東京都三鷹市と連携し、チリ、三鷹市、加美町の小中学生がオンライン交流会を開催する他、両国の市民がチリX日本女子サッカー試合をオンラインで応援した。また、大会直前にはチリパラリンピックカヌー・陸上選手団の受入を行った。大会後は、「復興ありがとうホストタウンオンラインサミット」に参加し、チリパラリンピック選手団の直前合宿の様子を紹介した。また、三鷹市と共催で、大会後オンライン報告会を開き、これまでの取組や今後の交流について意見を交換した。



小中学生オンライン交流会の様子



チリパラリンピックカヌー・陸上合宿の様子



「復興ありがとうホストタウンオンラインサミット」の様子



小中学生オンライン交流会の様子



チリパラカヌー選手団の練習の様子



チリパラ陸上選手団の練習の様子

復興ありがとうホストタウン（宮城県岩沼市の取組）

■ 宮城県岩沼市×南アフリカ共和国

復興ありがとうホストタウンの相手国である南アフリカ共和国を応援する取組として、市内小中学校にて、伝統料理のサモサとカラマリ（イカのから揚げ）をアレンジした給食メニューが提供された。また、東京2020オリンピック男子7人制ラグビーにおいて南アフリカ代表の試合を市民がテレビ観戦を行った。その際、オンラインで南アフリカとつなぎ、東日本大震災で救助活動を行ったRescue South Africaの代表（当時）と一緒に応援し、交流を深めた。



南アフリカ共和国応援メニュー



南アフリカ応援動画 Shosholoza！南アフリカ！



男子7人制ラグビーをテレビ観戦する様子

復興ありがとうホストタウン（福島県本宮市の取組）

■ 福島県本宮市×英国

市民が自宅のテレビなどでオリンピック・パラリンピックを観戦し、英国選手を応援する「おうちdeライブサイト」を実施。応援している様子の写真や動画を公式LINEに投稿してもらい、その写真や動画をまとめて英国オリンピック委員会・パラリンピック委員会に送った。

復興ありがとうホストタウンオンラインサミットにおいて、英国カヌー銅メダリストのリアム・ヒース選手と2019年に渡英し交流した市内高校生がオンラインで交流を行った。

また、英国オリンピック委員会から、本宮市の応援に対する感謝の証として、ベン・モスリー氏の絵画をいただいた。



英国チームや選手を応援する「おうちdeライブサイト」の投稿写真



市内高校生と英国カヌー銅メダリストとのオンライン交流



英国オリンピック委員会からいただいた英国チームへの応援に対する感謝を示す絵画

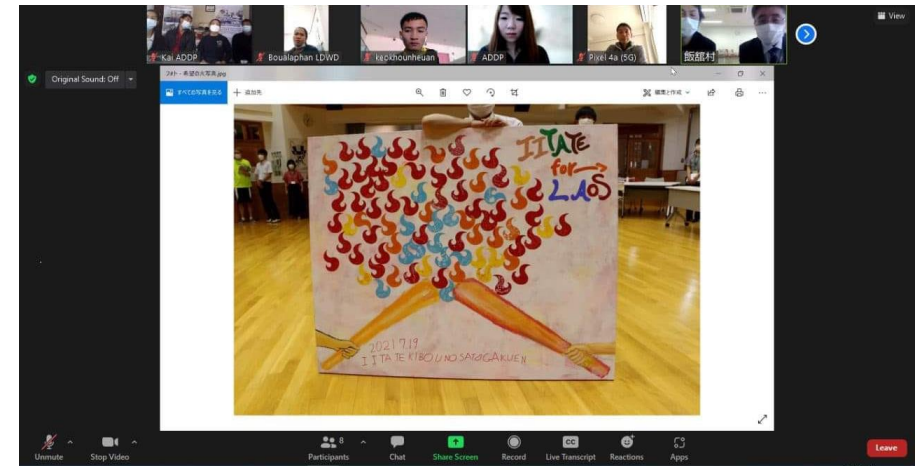
復興ありがとうホストタウン（福島県飯舘村の取組）

■福島県飯舘村×ラオス

ラオスパラ水泳選手たちとオンライン交流を実施。お互いの近況報告及び新規のラオスパラ水泳選手の紹介を受けた。ラオスパラ水泳選手たちは東京大会に出場できなかったが次大会に向けて、日々の練習に励んでおり、ラオスで行われた記録会の映像を拝見した。また、飯舘村で行った取組を映像で放映し、パラ水泳選手たちの今後の活躍を願い、激励した。



オンライン交流の様子①

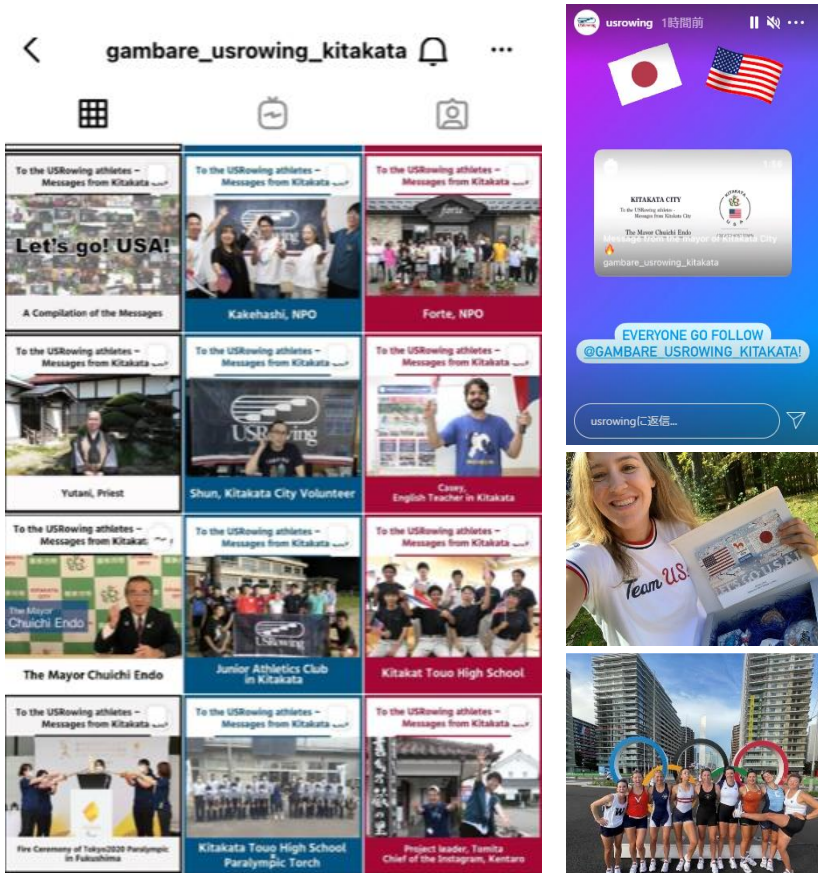


オンライン交流の様子②

復興ありがとうホストタウン(福島県喜多方市の取組)

■ 福島県喜多方市×米国

- ・東京2020大会に出場する米国ボート協会の選手に向けた市民の応援メッセージや、喜多方市の魅力をInstagramで発信。米国ボート協会のInstagramや多くのフォロワーから「ありがとう」のメッセージが届く。
- ・地元農業高校の家庭クラブの生徒が、喜多方市特産の「アスパラガス」やGAP食材の「そば」を使用した栄養たっぷりの米国選手向けの食事メニューを開発。市内の道の駅レストランで提供し、米国応援ムードを高める。
- ・姉妹都市ウィルソンビル市の皆さんと市内小中学校の児童生徒がオンラインで交流会を行い、絆を深めた。



米国ボート協会応援Instagramに感謝のメッセージ



成果発表PRポスター



メニュー開発に取り組む生徒



オンライン交流会でクイズをだす児童



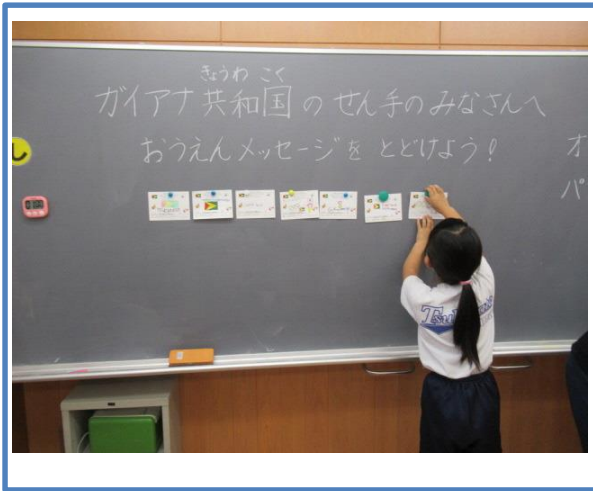
交流会の記念に参加全員で記念撮影

復興ありがとうホストタウン（福島県伊達市の取組）

■福島県伊達市×ガイアナ共和国

大会期間中に、選手村滞在中のガイアナ選手団へ子ども達を書いた応援メッセージカードと、猪皮製品などの特産品を贈り、応援と復興支援への感謝の気持ちを伝えた。

ガイアナ選手団からは「贈り物に心から感謝し、メッセージカードはずっと大切にします。子ども達からのメッセージでとても勇気づけられ、多くの選手が自己ベストやシーズンベストを出すことができました。」と感謝の連絡があった。



応援メッセージカードの作成の様子



応援メッセージカード



ガイアナ選手団へ贈った特産品

復興ありがとうホストタウン（福島県広野町の取組）

■ 福島県広野町×アルゼンチン共和国

1. オンライン共同応援

J F A アカデミー福島16期生が5人制サッカー「アルゼンチンvs.タイ」の試合を観戦しながら、アルゼンチンとのオンライン共同応援を実施。パラアスリートの凄さや相手国の応援の熱意など、多様性や異文化を学ぶ機会となった。日本障がい者サッカー連盟北澤会長の競技解説、丸川大臣の応援参加など、復興ありがとうホストタウン交流の後押しもいただいた。

2. オンライン交流会

令和元年11月に5人制サッカー代表チームと交流を行った小学5年生（当時3年生）が、東京2020パラリンピックに出場し、銀メダルを獲得した同チームの監督、選手らとのオンライン交流を実施。

日本にきた感想や将来の夢の決め方についての質問やメダルを見せていただくなど、再会を喜びながら多くのことを学ぶ機会となった。



オンライン共同応援するJ F A アカデミー福島16期生



パラアスリートとオンライン交流する小学5年生

③0 復興ありがとうホストタウン（福島県二本松市の取組）

■ 福島県二本松市×クウェート

競泳・射撃・空手の事前合宿を受入れ、公開練習や子供たちとのオンライン交流を実施。空手選手団から市に対して「本当に家にいるような気分にしてくれてありがとう」「決して皆さんを忘れませんし、きっとすぐ二本松に帰ってきます」など感謝のメッセージがつまった色紙や動画が贈呈された。壮行会では復興状況を伝える映像を放映し感謝を伝えた。

東京大会後、ホストタウン功労者として「駅前上口商店会」の皆さんに感謝状が贈呈され、本市もホストタウン自治体表彰を受賞した。



東京大会前に行ったクウェートオリンピック委員会とのオンライン交流の様子



安達東高校生の皆さんによるおもてなしレシピ開発



空手選手団からの動画



駅前上口商店会の皆さんによる選手の見送り



クウェート空手選手団の公開練習



地元空手スポーツ少年団とクウェート空手選手団のオンライン交流



復興状況の感謝を伝える動画鑑賞の様子

復興ありがとうホストタウン（福島県白河市の取組）

■福島県白河市×カタール

駐日カタール国大使館より公使を招き、市内小中学校（各1校）でカタール国の歴史や文化等を学ぶ「カタール特別授業」を実施した。

また市内の全小中学校において「カタール料理の体験給食」を実施した。



カタール特別授業



駐日カタール国大使館公使（中央）との記念撮影



カタール料理の体験給食